



白山へ侵入する ニホンジカ

近年、ニホンジカが全国的に増加しており、農作物や林業の被害や市街地出没が問題となっています。しかし、農林業や人身被害以外にも、国立公園では「生態系被害」が非常に危惧されています。

ニホンジカってどんな動物？

基本情報



↑ ニホンジカ(夏毛・オス)



↑ ニホンジカ(冬毛・メス)

体長:130~160cm

肩高:80~90cm

体重:40~90kg

角:オスのみ(枝分かれし毎年生え変わる)

夏毛:オス・メスともに茶褐色に白斑

冬毛:オスは濃茶色、メスは灰褐色

寿命:オス10~12才、メス15~20才

お尻:白い

出産:1才半で大人になり、2才から出産します。

通常、毎年1頭ずつ出産し、高齢になっても

出産率は低下しないといわれています。

食物:主に草です。植物ならたいていのものは

食べ、葉や実、樹皮、ササ、落ち葉なども食べ

ます。1日に食べる量はメスで5kg以上という

報告もあります。

特徴:なわばりを持たず、群れをつくります。

また、気に入った場所ではしばらく滞在する

という性質があり、お花畑の高山植物が根こ

そぎ食べられてしまうこともあります。

ニホンカモシカ



国の特別天然記念物で、ニホンジカの仲間では

ありません。オス・メスともに枝分かれし

ない角があり、お尻は白くありません。

ニホンジカが白山で増えると？

ニホンジカが高山帯に与える影響



↑ 防鹿柵の内側にはお花がたくさん咲くが、外側

にはお花が少ない

白山と同じ山岳の国立公園である南アルプス

では、ニホンジカが高山帯で増えた結果、高

山植物が食べられ、お花畑の景観が失われて

裸地になってしまった場所や、ニホンジカが好

まない植物(不嗜好性植物)ばかりになってし

まった場所があります。ニホンジカの「群れで

行動し、気に入った場所に留まって採食する」

という性質のため、ニホンジカが増えると短

期間で植生に影響が出ます。裸地になった場

所では、雨の際に土砂が流出しやすくなり、山

の持つ土砂災害防止機能にも悪影響を与え

ます。また、一度でも影響を受けたお花畑、特

に希少な高山植物群落を元の姿に戻すのは

非常に難しいものです。

白山では？

高山帯に現れたニホンジカ

白山では2013年に、標高約2,100mの南竜

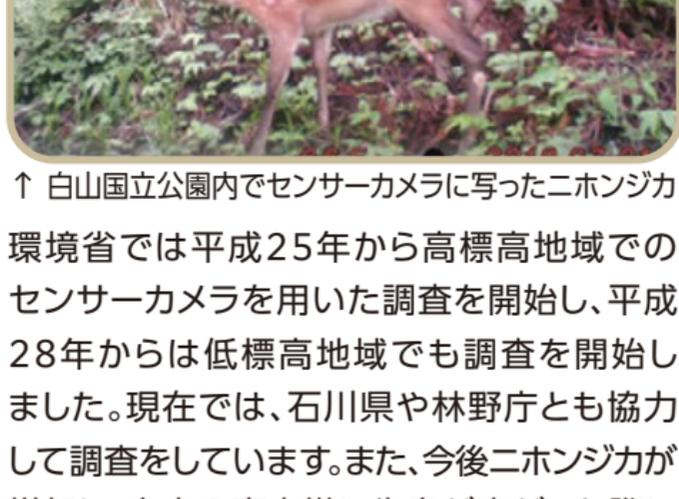
道でニホンジカが目撃され、大きなニュースに

なりました。これ以前から、白山周辺でニホン

ジカの生息は確認されていましたが、標高の

高い地点ではこの年に初めて確認されました。

白山での調査



↑ 白山国立公園内でセンサーカメラに写ったニホンジカ

環境省では平成25年から高標高地域での

センサーカメラを用いた調査を開始し、平成

28年からは低標高地域でも調査を開始し

ました。現在では、石川県や林野庁とも協力

して調査をしています。また、今後ニホンジカが

増加し、白山の高山帯に生息が広がった際に、

速やかに対応できるよう、優先的に保護すべき

高山植物群落等の選定と植生調査を実施

しました。